取組実績の概要 【２ページ以内】

本補助事業は、言語力、ロシア及び日本に関する教養・知識、経済についての知見、交渉力・調整力を併せ持ち、両国間の経済・文化交流を現場で支える高度な「日露ビジネス人材」を育成することを目的としている。ロシア6協定校と連携し、2017年度から2021年度の期間で以下事業を推進した。

【事業の推進体制】

事業の目的達成のため、全学の総合戦略会議の下に置かれた教育アドミニストレーション・オフィスに「世界展開力（ロシア）ワーキング」を設置し、全学的な体制で事業を推進した。さらに事業実施本部にロシアビジネスに豊富な経験を持つプログラムコーディネーターを採用し、在モスクワ・コーディネーターおよびロシア協定校の高等経済学院に設置した本学の海外拠点Global Japan Office (GJO)の担当者からなる現地のサポート体制を敷いた。また、外部評価委員会・有識者会議の体制を整備し、毎年度末に外部評価を実施することによりPDCAサイクルを実現した。

【プログラム内容】

本事業は、１）短期留学プログラム、２）長期留学プログラム、３）インターンシップ・プログラムの3段階の教育プログラムとして、派遣・受入のバランスのとれた双方向の学生交流を推進した。事業期間中の総数は、派遣が計画161名に対し実績186名、受入が計画191名に対し実績191名を実現した。

１） 短期留学プログラム

＜派遣＞モスクワ大学及び極東連邦大学と連携した短期留学プログラムでは、ロシア語の集中学習を通じロシア語力の向上と、ロシアの社会・文化・歴史についての理解を深めた。事業開始後3年間では計画を27名上回る72名の学生が参加した。2020年度はコロナ禍によりオンラインでの実施体制を整備し、2021年度には4名がモスクワ大学のオンラインプログラムに参加した。

＜受入＞「タンデム学習」と「国際日本学」から構成される2週間のプログラム「日露ビジネスサマースクール」を実施した。事業開始2年目の2018年度夏に初回のサマースクールを実施し、ロシア協定6校から計画を3名上回る29名が参加した。2019年度も計画比プラス2名の30名が来日し、本学学生と共に学び相互交流を行った。「タンデム学習」、「国際日本学」、「日露ビジネス」、「日露関係」、「日露交流史」、「日本文化」をテーマとする集中講義や企業研修の機会を提供した。2020年度と2021年度はオンラインを活用し、Zoomの機能を使用して対面での実施と同等、それ以上の効果をあげた。

２） 長期留学プログラム

＜派遣＞ロシア6協定校との交流協定枠、合わせて15名を基準として学生を派遣し、事業開始後3年間で計画を2名上回る47名が留学した。ロシア語を中心に学習しながら、「ロシア史」、「ロシア経済」、「統計学」、「マクロ経済学」、「国際関係」、「マスコミ論」といった科目を履修した。また、現地でインターンシップに積極的に参加しビジネスの現場で働く人々の生の声を聞き、日露ビジネスについての認識を高めた。コロナ禍の影響を受けた2020年度はオンラインのみ9名の派遣であったが、2021年度は実渡航9名、オンライン1名、ハイブリッド3名と、交流数を回復した。

＜受入＞初年度は 年度途中からの受入のため8名の実績を計上し、2018年度と2019年度では計画を11名上回る41名を受け入れた。日本語科目の履修で日本語の運用能力を高め、「日本文化」、「日本政治経済」等の科目を学び視野を広めると共に実践的な言語能力を磨いた。本学学生との「タンデム学習会」にも参加し語学力向上とロシア語専攻学生との交流を深めた。インターンシップや他の交流プログラムに積極的に参加し、ネットワーク形成を促進した。2020年度は実渡航１名、オンラインと実渡航の組み合わせ（ハイブリッド型）7名の計8名、2021年度はオンラインで8名の交流を実現した。

学生の交流活動として、「J-ANIME MEETING IN RUSSIA」を産学官協働プロジェクトとして実施した。同企画は、インターンシップとしての機能も果たし日露学生が協働し実践した。2020年度と2021年度に連続して開催されたこの活動は、日露の大学および関係団体間で入念に計画され、実施に際しての質の保証が担保されると共に修了証が発行される日露交流プログラムの１つとして最終的に位置づけられた。このアニメフェスティバルは、毎回「日露地域交流年2020-2021」の公式イベントとして認定された。修了証を授与された学生については、オンラインでの交流実績として計上をしている。

３） インターンシップ・プログラム

主に本学OB・OGで日露ビジネスの経験者を束ねる「TUFS日露ビジネスネットワーク」の協力のもと、日露の学生に様々な業種を受入先として多様なタイプのインターンシップを提供した。

＜就業体験科目＞一部のインターンシップでは「就業体験科目」を設定し、単位認定を行った。2018年度に受入学生5名が日本国内で、2019年度に派遣学生2名がロシア国内で、派遣経験学生1名が日本

国内で、2020年度には本学生3名、受入学生2名の計5名がオンラインで履修した。
＜J-ANIME MEETING IN RUSSIA＞3ヶ月以上、時に1年以上の長期にわたる「事業参加型インターンシップ」で、字幕・吹替の翻訳者を養成し、翻訳業務を請け負う「日本映像翻訳アカデミー(株)（JVTA）が企画・主催し、本学が共催したロシア向けアニメフェスティバルである。日露の学生が協働して「上映作品の選定・上映権交渉」、「翻訳」、「PR」、「協賛セールス」、「運営」といったタスクに直接取り組むことで、主体的行動力、チームワーク力、コミュニケーション力、リーダーシップ、そしてグローバルコンピテンシーを身につけてもらうことを目的とした。本学と協定校の枠を越え、広く他の日露双方の学生に門戸を開放した。2020年度に79名、2021年度に64名の学生が参加した。

４）　実学教育強化の取り組み

以下の科目を新規に開講し、ロシアビジネスに不可欠な基礎的知識を修得する実学教育を強化した。

・「ロシア語医療通訳入門」(2018年度秋学期より)
　インバウンド医療ツーリズムの専門家が医療通訳をめぐる問題と通訳作法について教授
・「駐在員のロシア語(ビジネスロシア語)」(2019年度秋学期より)
　事業コーディネーターが、ロシアを中心とするビジネスの基礎知識とロシア語を教授
・「国際日本学」(2018年度夏学期集中講義期間、サマースクールのプログラムの一つとして実施)
　日本在住のロシア語ネィティブの知日派講師がロシア語で日本ビジネス、歴史、文化について教授
・「日露ビジネス講義」(2018年度春学期より)
　TUFS日露ビジネスネットワークの構成員を中心とした全28人の講師が日露ビジネスの知見を学生に教授

【活動の広報】（本事業HP：https://wp.tufs.ac.jp/russia-jp/）

日本語・ロシア語・英語で本事業による活動と成果を発信し、本事業ホームページに情報を蓄積した。様々な会議に出席しグッドプラクティスの紹介をすることで事業の横展開を実施し、また本学学生の留学体験記は別途本学ウェブサイト上でロシアへの留学を志す学生に広く公開している。

【補助期間終了後の展開】

事業年度を通して培ってきた協定校・ビジネス業界・本学卒業生等の多数のネットワークを、引き続き維持・発展させることで、「日露ビジネス人材」の育成を推進していく。特に、事業後半のグッドプラクティスとして挙げられる「J-ANIME」を通して、インターンシップの環境提供に向けた様々なノウハウやネットワークを蓄積しており、2022年度以降も状況を見ながら推進していく計画である。

また本学では、コロナ禍を機に海外協定校からの授業提供を可能にする特定非常勤講師制度の導入等、組織的なオンライン共同教育の開発を支援する体制を整え、2021年4月に運用を開始した。今後は、実渡航による交流とオンライン、オンデマンドによる教育を効果的に併用し、より広範な学生交流を推進していく。

【本事業における交流学生数の計画と実績】　（単位：人）

		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度		2021年度				合　計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣		受入		派遣	受入
計画※		28	15	30	41	32	43	34	45	37		47		161	191
実績	実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	39	8	39	46	41	54	0	1	9		0		128	109
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」					0	0	24	34	A	0	A	0	55	75
										B	31	B	41		
	実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」					0	0	0	7	3		0		3	7

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

※2021年度オンラインについては、以下ＡＢそれぞれの実績値を記入。

Ａ：コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの

Ｂ：もともとオンライン実施で準備していたもの

特筆すべき成果（グッドプラクティス）Ⅰ【1ページ以内】

【Ⅰ　事業全般について】

◆学生の事業参加の動機づけを促す「RJIプログラム」の導入

第一回外部評価委員会・有識者会議（2018年3月）での委員からの提言を契機に、本学のロシア語専攻学生が到達すべき外国語力基準（ロシア語・英語）、履修すべきビジネス関連科目、参加すべきインターンシップを明確に可視化したRJIプログラムを導入した。外国語力では、本学の派遣学生が現地で120時間以上のロシア語の授業を履修するなどにより、ロシア政府公認のロシア語検定試験　TORFLの第2レベル以上に合格すること、英語ではTOEICで800点以上に到達することを求めている。また既に開講されている、日本を深く知るための科目、経済・経営科目の一部、新規開講のビジネス関連科目を履修することも求めている。新規開講科目には「日露ビジネス講義」（春学期）、「国際日本学」（以上夏学期）、「ロシア語医療通訳入門」（秋学期）、2019年度秋学期からの「駐在員のロシア語」（ビジネスロシア語）があり、このなかから3科目を選択履修する。さらに国内外で実施されるインターンシップに2回以上参加し、報告書を提出することが求められている。同プログラムの導入により、学生の本事業への参加意欲の向上と、学習成果の可視化を実現した。

◆TUFS日露ビジネスネットワークによる支援体制の構築

主に本学OB・OGで日露ビジネスの経験者を束ねる「TUFS日露ビジネスネットワーク」の支援を受け、日露の双方でのインターンシップの機会を提供し、実学強化の一環であるビジネス関連科目（日露ビジネス講義等）を提供できる連携体制を構築した。ビジネス関連科目の新規開講に当たっては、ネットワークメンバーが講師として、あるいはその仲介役としてプログラムの構築を支援した。また、本学OB・OGの親睦を図る東京外語会のモスクワ支部が本学の派遣留学生と定期的に交流し、学生の様々な相談に応じた（事業期間中に3回実施）。本学の卒業生ネットワークが日露ビジネス人材育成の一翼を担った。

◆グローバルコンピテンシーを育むインターンシップの開発

ロシアでインターンシップを用意するにあたり、労働許可取得なしの違法就業と見なされるリスクの存在を念頭に置き、インターンシップタイプ別に専門家から移民法・労働法の観点でのリーガルチェックを事前に受け、それに準拠することで、インターンシップ実施にかかるリスク低減に配慮した。

インターンシップ受入先開拓には「TUFS日露ビジネスネットワーク」が大きな役割を果たした。また、在モスクワのコーディネーターが受入企業との調整役となり、安全面へ最大限の配慮を行った。受入先を製造業、エンジニアリング、建設、コンサルティング、旅行代理店、マスコミ、文化交流、字幕翻訳等とし、実に多種多様な機会を提供し、インターンシップの一部を「就業体験科目」として単位化した。

次の4点に留意し、インターンシップ機会を提供し質的にも量的にも大きな成果をあげた。

1) インターンシップの内容は日露間のビジネスに何らかの関連があること
2) 1-Dayインターンシップ（会社ツアー型インターンシップ）でも人事部の担当者ではなく、日露ビジネスの最前線にいる方から生々しい話が聴け、オープンな質疑応答の機会が用意されること
   ・特にロシアで実施したインターンシップはこのタイプで実施され、モスクワ大学、極東連邦大学主催の短期留学プログラムにも会社ツアー型インターンシップを組み入れた。
3) 採用活動の一環の形式的なインターンシップではなく、真の意味での就業体験ができること
   ・代表例である J-ANIME MEETING IN RUSSIAは、実施期間、内容の充実度、学生が得た学び・気づきの多さにおいて世界標準レベルのインターンシップであったと言える。また、ロシア企業RYATICOでは対日ビジネス展開に資する「課題解決型インターンシップ」に本学の学生がモスクワ留学に従事し、企業にとって貴重な情報を提供した。
4) 可能な限り国内外の大学にもインターンシップの機会を開放すること

◆実学教育の強化

既存の実学系科目（簿記、経済学、経営学等）の履修を本学学生に促すとともに、新たに4つの科目を開講した。「日露ビジネス講義」でビジネス経験者から臨場感あふれる話を聴くことで日露ビジネスへの関心が高まり、「国際日本学」ではロシア語で日本を説明する動機づけとなり、「ロシア語医療通訳入門」では文系でも医療分野で働く可能性を知り、「駐在員のロシア語」ではビジネスパーソンの基礎知識を得、ロシア語を使って働くための基本語彙と表現を学ぶことができた。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）Ⅱ【１ページ以内】

【Ⅱ　オンラインの活用について】

◆日露学生が共に学び合うサマースクールの開発

ロシア6協定校から本学の夏学期期間中に短期留学する学生を受入れ、本学学生も履修可能な正規授業として開講され、試験に合格した受入学生には単位取得の証明書を発行するプログラムである。2018年度、2019年度は、ロシアの学生が来日し、対面によりプログラムを実施したが、2020年度、2021年度は企画内容を調整の上、オンラインに切り替えて実施をした。

来日して対面で行う以上の効果を発揮することができたのが、「タンデム学習」である。オンラインシステムの機能を駆使することで、学生同士を1対1の「個室」にそれぞれ区切ることを可能とし、学生がより自由にタンデム学習をする機会を与えることができた。また、教員が個室を訪問することにより、個別の学習状況を把握することができた為、より具体的なアドバイスを行うことができ、語学力と相互理解の向上に繋がった。サマースクール終了後、学生からはオンラインという環境とタンデム学習の相乗効果への高い評価があった。

タンデム学習の様子

◆産学官協働によるJ-ANIME MEETING IN RUSSIAを通じた日本発信

2020年11月と2021年11月に合計2回実施した、日本映像翻訳アカデミー株式会社（JVTA）主催、本学共催として行ったモスクワ最大級のアニメイベント開催に向けた、インターンシップである。このインターンシップでは、①上映作品の選定、②配給会社と上映権の交渉、③上映作品の翻訳、字幕作成、④SNSなどでのPR活動、⑤クラウドファンディングによる資金調達、⑥イベントの運営、開催、といったことに参加学生が取り組んだ。本インターンシップは、コロナ禍以前よりオンラインを導入し、日本・ロシアの学生双方が協力をしながら、効果的にインターンシップ活動に取り組んできた活動である。様々なICTを最大限に活用することで、円滑なイベント準備を可能にすると同時に、学生自身のツール活用の技術も飛躍的に向上した。

イベント当日は、モスクワにて実施予定であったが、コロナ禍の影響でオンラインでの実施となった。結果としては、オンラインの利点を最大限に活用し、5,000人以上の視聴者を迎え、日本のアニメ文化を発信する日本・ロシアの政府機関からも注目されるイベントとなった。2021年2月にオンラインで開かれた「「ロシア語通訳・翻訳専門育成に関する連絡会・意見交換会」では、グッドプラクティスとして本インターンシップについての発表を推薦され、他大学等にその経験を共有した。

特集記事（大学ホームページ）

上映作品のラインナップ